

国内でも 協力できる

新見市哲多町成松、哲多中の生徒が十六日、国際医療ボランティアAMDAグループ（本部・岡山市櫛津）が運営する公設国際貢献献大学校（新見市哲多町田淵）を訪れ、「国際貢献ボランティア学習」を行った。紛争・被災地への国際協力は、海外に行くことだけでなく、救援物資の整理作業など国内での活動が大切なことを学んだ。

新見・国際貢献献大学校で哲多中3年生

支援の在り方学ぶ

生徒にボランティアに九人が参加した。対する関心を高めてもらおうと、同校が総合的な学習の時間を利用して毎年実施。今年は三年生三十

九人が参加した。大学の丸山尚人救

室長が「国際協力への道」と題し講演。「海外で活

動する人が脚光を浴びが

ちだが、国際協力は国内協力と国外協力が何輪と

なって成り立つ。募金や

救援物資整理など国内で

頑張っている人が大勢い

ることを忘れないでほしい」と説明した。

生徒は小グループに分

かれ、国際協力の必要性



などについて意見を出し合った。

奈尾愛さん（五）は「イ

ンドネシアの津波被害に

関心があった。実際に

現地に行かなくても、で

きるものがたくさんある

ことがよく分かった」と

話していた。同校は大

学校での学習を通じ、二月中旬をめどに「ボラ

ンティア新聞」を作製す

る。
この日は、県海外技術
研修生として昨年十二月
から、大学校で研修中の
キルギス共和国医師、ラ

イムベコワ・インディラ
さん（三）も講師を務め、
母国を日本語で紹介し、
交流を呼び掛けた。
（赤井康浩）

丸山救援室長を講師に、国際協力の在り方を学ぶ生徒ら

